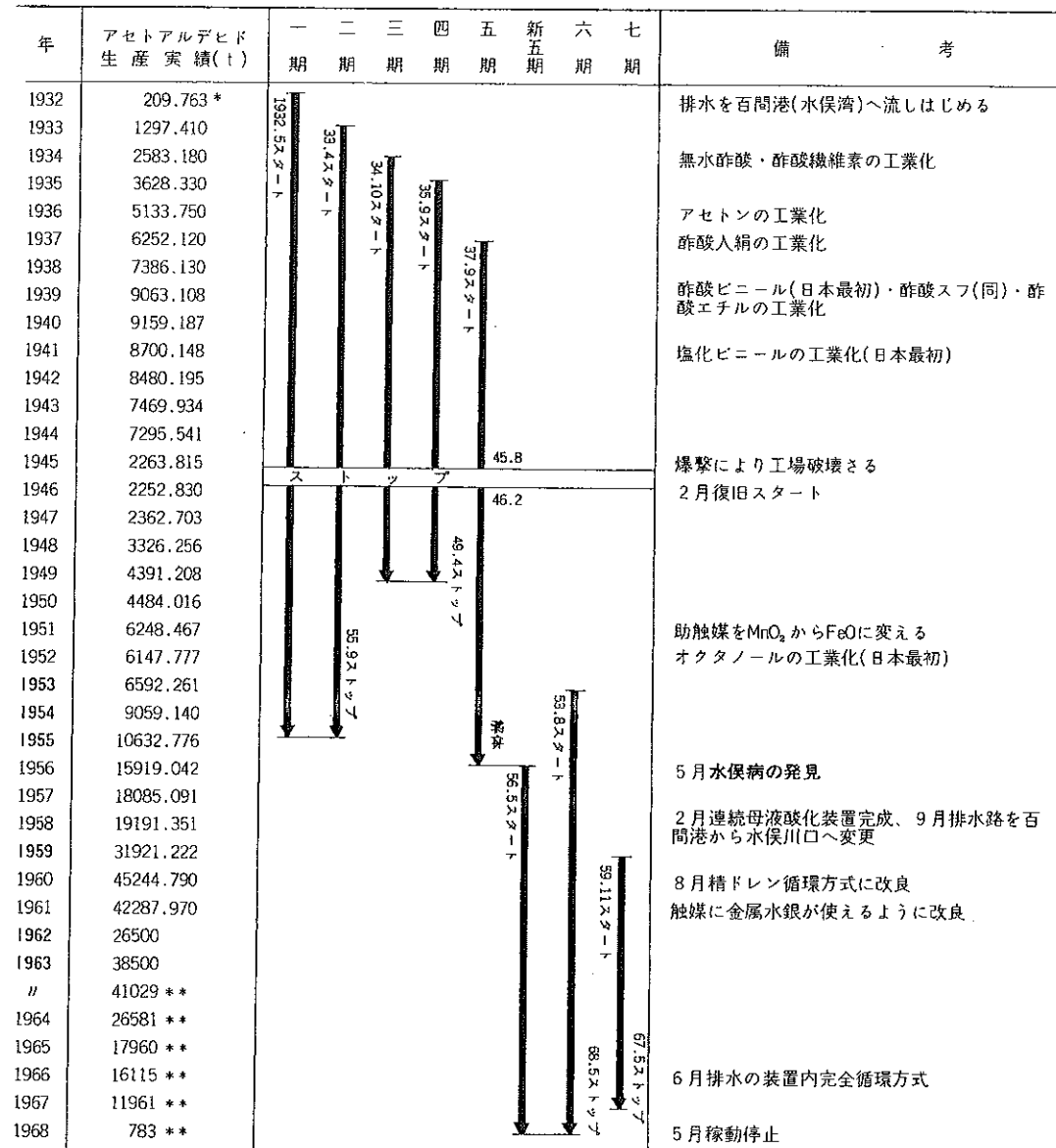


が、その誘導品の原料としてすべて自家消費される中間製品（図2、156p）であったため、部分的にしかその生産実績は公表されてこなかった。全期間にわたるその生産実績が公表されたのは、1972年熊本県議会へ提出された資料によってであった<sup>38, 39)</sup>。その後、1961年までの約30カ年の生産実績を、kg単位歴年で集計した資料<sup>40)</sup>が見つかった。そこで上記資料を若干修正し、図5に生産実績の推移と

図5 水俣工場のアセトアルデヒド生産実績と設備の稼働状況



★

株  
主  
の  
増  
設

装置のシステム………蒸気分溜法 真空分溜法

註 アセトアルデヒド生産実績は、1961年までは製造日報から集計された歴年のデータ<sup>40)</sup>、62、63年は製造日報を基礎に欠落部分を補った推計値(歴年)。その後はチョン株式会社資料<sup>39)</sup>によったが、会計年度の集計なので63年から掲示した。

\* 計算時12月分の日報がなかったため、実際の生産量は上回る。 \*\* 会計年度の集計。

† チョン株式会社：“水銀の使用状況について”，1972<sup>39)</sup>、水俣病研究会：“水俣病にたいする企業の責任—チョンの不法行為”，1970<sup>19)</sup>。その他を参照して作成